

ローソンがコンビニで介護支援 ～異業種からの参入～



コンビニ大手のローソンが高齢者を支援するコンビニエンスストアを2015年から出店します。

具体的には、昼間ケアマネージャーを常駐させ生活支援の助言をしたり、介護に必要なサービスや施設の紹介・あっせんを行うそうです。また、フィットネスクラブ大手のルネサンスと連携し、全国展開するローソンの敷地内で、ルネサンスの小型介護予防施設「元気ジム」の設置などを検討しています。

今回は上記の他、異業種から介護事業へ参入した例を紹介します。

[グリー株式会社] (ソーシャルネットサービス大手)

介護施設の検索サービス「介護のほんね」の提供。(無料)

- ⇒ 高齢者向け介護施設・住宅の情報を掲載し、過去にその施設を利用したことがある入居者やその家族のほか従業員からの口コミを集め掲載しています。施設の比較検討から、希望に沿った施設に入居できるようサポートしています。

[ALSOK] (警備保障大手)

子会社を設立し訪問介護、居宅介護支援、福祉用具貸与事業を提供。

- ⇒ 自宅の警備という本来の業務から「生活全般のセキュリティサービス」にまで進化させ、多面的な顧客ニーズに対応しています。

[株式会社タカハシ] (北海道でのカラオケボックス大手)

高齢者向け賃貸住宅事業へ参入。

- ⇒ 共有スペースにカラオケや映画を楽しめる施設を設け、住人同士が円滑にコミュニケーションをはかれるように工夫しています。



これから訪れる超高齢社会に向けて介護業界では“イノベーション”を起こしていく必要があると思います。各事業所が利用者や地域の潜在的欲求「ウォンツ」を探り新しいサービスを生み出していくことでそれは可能になります。

今回の例のように“介護”という枠ではなく“生活”という視点から新たな事業展開を考えてみても面白いと思います。ぜひそんな視点を持って“頭の発想”を試してみられてはいかがでしょうか。